

2013年度サポートツール・データベースへの追加実証

サポートツール実証データ

実証研究実施者	村井敏宏
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	字形
困難	漢字が覚えられない
サポートツール	新版あわせ漢字ビンゴゲーム 1 (小学校2～3年生の漢字) 新版あわせ漢字ビンゴゲーム 2 (小学校4～6年生の漢字) 太郎次郎社エディタス (http://www.tarojiro.co.jp/kanji/)
学年	小学校4年生 (特別支援学級在席)
試用期間	2学期 (9月～10月、2ヶ月間) *週1時間、特別支援教室担当者と一緒に通級指導教室で学習する時間を設けた
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	新版あわせ漢字ビンゴゲーム 1 (小学校2～3年生の漢字) を使用した
使用状況 <授業の構成等>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの困難さとADHDを併せ持つ児童である 漢字の書字に抵抗があるため、プリント教材に書く練習ではなく、ゲーム性のある漢字ビンゴとiPadによる書字練習に取り組んだ。 学習自体に抵抗感が強いため、導入にUNOのカードゲーム、学習が終わるとプレイルームでの運動遊びを取り入れた。
<子どもの様子>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導当初は通級指導教室での学習自体に意欲がなく、暴言を吐いたり、課題に取り組めないことも多かった。 ・漢字ビンゴゲームは、書く必要がなく、部首の組合せを考えるだけなので、抵抗なく取り組めた。 ・ビンゴになる漢字が作れると、ビンゴカードがもらえるため、作戦を考えながら意欲的に取り組んでいた。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを並べ、準備するのに時間がかかるため、偏と旁を別々の袋に入れて整理しておくとしやすい。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム性が高く、子どもが意欲的に取り組める教材である。 ・かんむりとあしの組合せの漢字もあり、複数回使っても飽きない。 ・偏と旁の組合せ方によっては、漢字にできないカードが出てくることがある。 ・カードを並べる準備に時間がかかるため、事前の準備が必要である。 ・漢字の学習に意欲的に取り組めることで、他の学習にも意欲が増し、通級指導教室での学習を楽しみにするようになった。 <p>*この教材は、「偏と旁・かんむりとあし」という漢字の形に特化した教材である。漢字を正しく覚えていくためには、「音(読み)・形・意味」の三要素をセットにして覚える必要がある。特に「意味」は重要で、「漢字なりたちブック」(太郎次郎社エディタス)などを使用し、漢字の形と意味がつながるような漢字指導が必要と考える。</p>

サポート・ツールの概要



サポートツール実証データ

実証研究実施者	熊上 藤子
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	社会性
領域	スキル
困難	場面の切替えや予定の変更が苦手、集団指示が聞けない、予定を忘れる
サポートツール	保育所や幼稚園でそのまま使える 「クラス」の予定表用 絵カード
学年	保育所 2才児クラス ・ 3才児クラス
試用期間	2012月10月 ～ 2013年3月 /週5回
使用場所	保育所内 保育室
使用上の注意、条件	作成者(巡回相談員)から担任保育士に対して使用方法に関する事前説明を行い、巡回相談時等にフォローも行った。
使用状況 <授業の構成等>	<p>1) 朝の会でクラス全員に向けて、今日の予定を確認する時間を作る。 特に、気になる子には、個別にも見せる。説明時間は、1分以内を心がける。 並べ方等は、各クラスの担任保育士に任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A園 2才児クラスでは、時計の針の動きとマッチングできるよう、不要CDをリサイクルして、時計の見本を作って並べた。このため、遊び終了時刻の予告等にも随時使用した。 ・B園 3才児クラスでは、透明ビニールのウォールポケットがあったため、ポケットの数に合わせて1日分をタテに並べて使用した。 <p>2) 基本的には、黒文字の『毎日の行動カード』(例: あさのかい)を使う。 プログラムによって、青文字の『今日の活動カード』(例: たいそう)を差し替える。 生活面で支援したい「気になる子」には、赤文字の『生活習慣』カード(例: といれ)も使用する。</p> <p>3) 天候や行事等の影響で、予定の変更がある場合、カードを入れ替えて見せながら説明する。</p> <p>4) 予定していた活動の時間が過ぎたら、担任がその都度、カードをしまう。または、裏返して使用する。 この際、子どもたちに達成感を持たせるため、その時間に「できた」ことを端的に明確に伝える。例: 「お散歩から帰ってきたから、このカードはしまえます。楽しかったね。みんな、片付けも上手だったね。」</p>
<子どもの様子>	<p>両クラスとも、3才児健診で発達遅れ等を指摘された子が複数在籍しており、さらに数名、集団活動からの逸脱行動(担任が話している時に立ち歩く、予定が変更になると怒る等)が見られた。多くの子どもたちは、保育士らから注意されても行動修正が難しかった。</p> <p>カードを使用し始め、視覚情報に対する注視時間が増えた。まずクラスが注意集中しやすくなることで刺激が統制されたためか、目立っていた「気になる子」たちも注視できるようになった。その結果、予定変更で怒ることが急減し、切替えやすくなった。</p>

	<p>クラス内では、「次は体操だよ」等と、掲示されたカードを見て声をかけあう様子も見られた。</p>
<p>留意事項</p>	<p>子どもたちによっては、イラストよりも写真がよい場合がある。</p>
<p>評価</p>	
<p>サポート・ツールの概要</p>	<p style="text-align: center;">＜使用例①＞</p>  <p style="text-align: center;">時計の見本と一緒に。 (2才児クラス)</p> <p style="text-align: center;">＜使用例②＞</p>  <p style="text-align: center;">朝の会で、予定を確認。 (3才児クラス)</p> <p>※ 「そのまま使える」カードは、ワードファイルにて別添。</p>

サポートツール実証データ

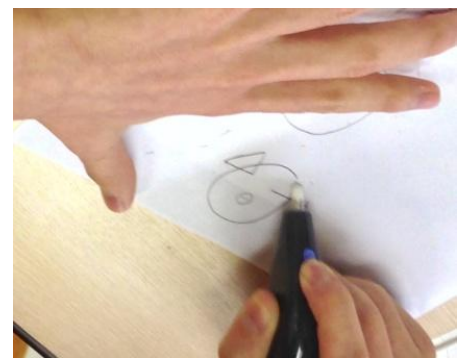
実証研究実施者	内藤孝子
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	鉛筆の使い方
困難	消しゴムで消すとき、力のバランスをとることが難しく、ノートが破けたり、きれいに消すことができなかつたり、時間がかかる。
サポートツール	電動字消器 N020
学年	高校 2 年生
試用期間	2 日
使用場所	民間の個別指導の場
使用上の注意、条件	使用時に、電動音がするので、使用場所が限られる。
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>国語の時間（個別指導）</p> <p>○語句の意味調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書の記述を、ノートに写す。 ・書き間違いを普通の消しゴムを使って消す。左手を広げ、ノートを押さえてけそうとするが、左右の手の力加減のバランスがわるく、押さえていたノートが曲がり、消したい字だけではなく、他の字も消えてしまった。 ・電動消しゴムを使ってみることを提案 <p>[電動消しゴムを使って見ると]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、どう扱うか迷っていたが、右手で、ペンを持つようにもち すぐに作業に取り掛かることができた。 ・スイッチをいれると、電動音が大きいので、音に気を取られていた。 ・消したい箇所に消しゴムの先をおき、スイッチをいれると、ターゲットの箇所を消すことができた。しかし、消しゴムが小さいため、消したい箇所を消したら、消しゴムがかなり減ってしまったが、きれいに消すことはできた。 ・紙にかいた線を消す作業をした。紙を押さえるほうの手の指先の力のバランスに影響されずに消すことができた。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチをいれると、音が気になる
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・使用時に電動音がでる ・落とすと、ペンケースにいれていてもすぐ壊れるので、扱いには注意が必要 ・ペン字の字消しができるので、事務用にはよい
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットの字（消したい字）のみ、消すことができる。 ・きれいに消すことができる（ノートがしわにならない） ・電動音が大きいので、周囲がおどろくので、教室等では使いにくい。 ・消しゴムが小さいので、消す箇所が小さい時には、便利であるが、消す箇所が大きい場合は、すぐに消耗してしまうので、不向きである。 ・製図用向き

サポート・ツールの概要

[電動消しゴム] 価格 2,078 円



[電動消しゴムを使用]



[消しゴムを使用]

